

# 熟 Jyuku☆Navi じゆく・ナビ

毎

## 戦争を語る

今年、戦後65年。出兵した人たちも80歳を超えた。12月8日は太平洋戦争が始まった真珠湾攻撃の日。今回は、戦争と平和をテーマに、戦争体験した人たち取材した。

### 平和のつどい

福生市では、市と世界連邦運動協議会(※)が共催し、や、話せる人の年齢など1988年から2000年まで、14回の「平和のつどい」を開催してきた。

01年に同支部が解散したため、15回から市単独主催となった。その話し合いの中で、戦後の福生を市民に語ってもらうという案がでた。45(昭和20)年の福生の人口が約1万、現在は6万を超えている。



寄せ書きされた日の丸を持つ山崎さん

ている。

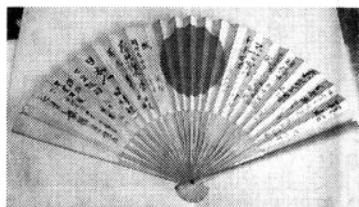
「ふっさっ子」には、多摩飛行場から横田基地に変わる様子や戦後の福生の状況などが、子どもたちの視線を通して描かれている。

そんな経験から「平和のつどい」で、語る人の調整を頼まれた山崎さん。「くらし」など6つの分野で話せる人に依頼し、第15回の「市民が語る戦後の福生 昭和20年」は、会場が満員になる大盛況だった。

その後、市民が自



陸軍からの入隊案内の手紙



終戦時に書いた所属部隊の寄せ書きの扇子



同市戸倉の内倉邦夫さん(72)は、同地域の遺族会支部長を務めている。今回息子の嫁の田倉由紀子さん、孫の田倉悠生(ゆうき)君(小2)、壮真(そうま)君(6)と参加

徴兵検査(※2)を通らず、戦争が激しくなってくるにつれ、「戦争にいけない男性は肩身が狭かった」と話す。「あそこの家は、といわれるのが辛く、徴兵検査より一年早く19歳で陸軍に志願したのです」と山崎さん。通信兵になり、東村

ら体験したことを語る「平和のつどい」は毎年盛況に行われ、08年度からは昭和30年代を語っている。来年の3月には、08年〜10年の3年間のつどいの記録と、戦争時の福生市の被災の状況を話した市民座談会(82年実施)の記録をまとめた2冊目の冊子が、同市総務部から発行される予定だ。

被災の座談会も、山崎さんが当時の録音テープを持っていたことから文章に起こすことになった。そんな山崎さんは自ら志願して軍人になった体験を持つ。6人兄弟の二男に生まれた山崎さん。兄が幼いころのケガで



07年に発行された「平和のつどい」記録集

そんな山崎さん(72)は、同地域の遺族会支部長を務めている。今回息子の嫁の田倉由紀子さん、孫の田倉悠生(ゆうき)君(小2)、壮真(そうま)君(6)と参加

(※1) 世界連邦運動協

議会・世界から戦争を無くしていこうと、世界全体の国家を統合した世界連邦の成立を目指す国際的な非政府組織。

(※2) 徴兵検査は、20歳以上は義務だったが、17歳から志願によって兵営に入ることができた。